２．小豆島町中山地区の石造物調査

栗田　晋吾・鮫島　聖斗

１．はじめに

本報告では、小豆島町中山地区において実施した 2023 年度文化遺産フィールド実習でおこなった調査と対象となった石造物について報告する。

小豆島は良質な花崗岩や加工に適した凝灰角礫岩を産出し、石造物や城郭の石垣に利用されるなど石材産業が盛んに行われた歴史を持ち、現在でも小豆島では多くの石造物が確認される。今回の調査地である小豆島町中山地区は小豆島のほぼ中央にある中山間地域で、斜面に広がる棚田を中心に民家と山地から形成される農村地帯である。中山地区にある特徴的な石造物について調査をおこなった。

事前学習では、石造物調査にあたって基礎知識となる石造物の形式と特徴をまとめ、参加者間で知識の共有をおこなった。また、調査対象となる石造物を選出し、Google のストリートビューを用いて中山地区に点在する石造物の分布を確認し、分布図を作成した。（栗田晋吾）

２．現地調査と事後整理

小豆島町教育委員会の真砂祐樹氏の案内のもと、中山地区の石造物の調査をおこなった。現地調査ではとくに奥中山八角灯籠と八木邸石造物を重点的に調査した。

日時　2023 年 9 月 16 日 9：00 ～ 12：00

場所　小豆島町中山地区

調査者　岩井天、鮫島聖斗、藤井まつり、和田茜、和田佳織（以上学部２回生）
　　松岡茉陽琉（博士前期課程１回生）

調査方法　メジャーによる実測・「Scaniverse」を用いた 3D 計測・「ひかり拓本アプリ」を用いた拓本作成

＊「ひかり拓本アプリ」：石に刻まれた文字や文様に対し様々な角度で光を照射・撮影してできた影から、画像を合成するスマートフォンアプリ（奈良文化財研究所ウェブページより要約）

（１）奥中山八角灯籠

この灯籠は蓮華寺から少し東方に離れた道路脇の削平地に設置されていた（105 頁図１参照）。灯籠の

写真１　奥中山八角灯籠現況

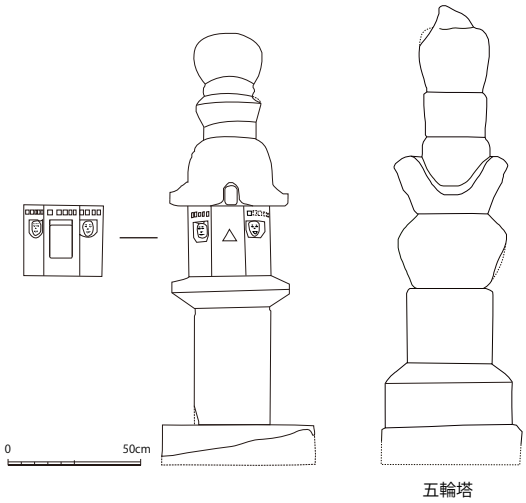

図１　奥中山八角灯籠実測図

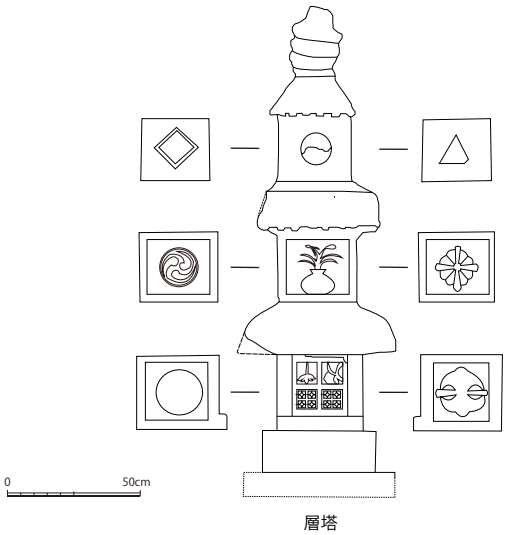

図２　八木邸石造物実測図

脇には在野の研究者によって「きりしたん灯篭」の石碑が添えられている（写真１）。凝灰岩製と考えられ、実測と 3D 計測をおこなった（図１）。

（２）八木邸石造物

八木邸は中山地区の庄屋邸宅であり、五輪塔と層塔が設置されている。いずれも実測と 3D 計測をおこなった（図２）。また、層塔は文字彫刻が確認されたため、「ひかり拓本アプリ」による拓本を作成した。どちらも凝灰岩製と考えられる。

事後整理作業では、現地調査で収集したデータの整理をおこなった。まず、「Scaniverse」で作成した 3D 画像からオルソ画像を作成した。続いて、オルソ画像をトレースして立面図をそれぞれ作成した。また、奥中山八角灯籠については一般的なキリシタン灯籠と比較の結果、類例が見られないことからキリシタン灯籠との確証は得られなかった。

３．おわりに

今回の調査では、小豆島町中山地区に所在する石造物の調査をおこない、奥中山八角灯籠と八木邸石造物については実測と各種データの作成をおこなった。また、実測をおこなった石造物以外にも多くの石造物を目にすることができ、小豆島の石材産業の一端を知ることができた。最後に調査全体にわたってご協力いただいた小豆島町教育委員会の真砂祐樹氏に心から感謝申し上げます。（鮫島聖斗）

参考文献

小豆島町教育委員会 2023『小豆島文化財保存活用地域計画』小豆島町

奈良文化財研究所「ひかり拓本プロジェクト」（https://www.nabunken.go.jp/research/hikataku.html）（2023/12/21 最終閲覧）

編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、３年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。（き）

京都府立大学文学部歴史学科
フィールド調査集報　第 10 号

編集・発行　京都府立大学文学部歴史学科
〒 606-8522　京都市左京区下鴨半木町 1-5
発　行　日　2024 年 3 月 30 日
印　　刷　株式会社 北斗プリント社
〒 606-8540　京都市左京区下鴨高木町 38-2